

令和2年度 学校評価集計結果/成果と課題/改善策・向上策

項目	具体的取組	評価の観点	回答者	目標 指標	結果	前年度	成果と課題	改善策・向上策	
I 確かな学力	すべての教員が、最低1回は授業を公開し、楽しく分かる授業をめざす。	教材研究を行い、授業形態や教材・教具を工夫し、分かる授業の実践に努めている。(取組指標)	教員	90	100	100	今年度は、ICT機器を積極的に授業の中に取り入れた。特に、国語、算数についてはデジタル教科書を活用し、児童の興味関心を高めながら学習を進めることができた効果があった。また、他の教科でも必要に応じて、動画などの視聴、実物投影を使って説明するなどしてタブレットPCをこ活用し理解を深めていくことができた。	ICT機器を授業の中で活用していくことについては、これからも実践や研究を進めていく必要がある。児童の理解の深まりを見て、教員同士の研修を重ね、これからも実践を重ねていく。また、コロナ禍の中であった、対話的な学習については感染予防に努めながら引き続き、児童の理解が深まるような授業展開を図っていく。	
		教材研究を行い、授業形態や教材・教具を工夫し、分かる授業を実践することにより、児童は授業がよくわかるようになっていく。(成果指標)	教員	90	100	95			
		児童は、授業がよくわかるようになっていく。(成果指標)	児童	90	93	88			
		子どもは、授業がよくわかるようになっていく。(満足度指標)	保護者	80	84	80			
	日々の授業を通して、読み・書き・計算の基礎的な力を養う。	日々の授業を通して、読み・書き・計算の基礎的な力をつけていける取組を行っている。(取組指標)	教員	95	100	100	今年度から新学習指導要領が全面実施となり、「主体的に対話的で深い学び」を礎として学習がスタートした。ただ、機械的に覚える基礎学習ではなく、最終的な学びのゴールを見据え、見通しをもって基礎的な学習が行われるよう、児童への基礎的な学習の楽しさを伝えていく。	児童が、自分の考えを話したり、他の人の考えを聞いたりする活動の中でも学びの基礎は培われていく。学習の中で、友達と共に学び合い、たくさん学習の楽しさを感じていく。意欲が高まり、それを認めていくことさらに基礎的な学習の楽しさを伝えていく。	
		日々の授業を通して、読み・書き・計算の基礎的な力がついている。(成果指標)	教員	95	95	94			
		児童は、日々の授業を通して、読み・書き・計算の力がついた。(成果指標)	児童	95	95	95			
		子どもは、日々の授業を通して、読み・書き・計算の力がついた。(満足度指標)	保護者	80	87	83			
	読書環境を整えると共に、市の図書館と連携をとり、調べ学習などを推進して、読む力、考える力の向上を図る。	読書や調べ学習を推進して、児童の読む力、考える力が向上するための取り組みをしている。(取組指標)	教員	90	94	89	今年度は、図書館の利用・市の図書館の活用などを制限したことにより、全体的にポイントが落ち込んだ。学校再開とともに少しずつ利用の機会を増やしているが、家庭読書の取り組みは未実施である。	今後は家庭読書の日を再開させたり、読み聞かせやブックトーク等を実施したりしていき、また、学校で本を読んでいる様子を家庭に発信できるように取り組みを考えていく。	
		読書や調べ学習を推進して、児童の読む力、考える力が向上できた。(成果指標)	教員	90	72	68			
		児童は、読書や調べ学習活動を通して、読む力、考える力が向上した。(成果指標)	児童	90	77	71			
		子どもは、家庭で本をよく読んだり、図書館を利用したりしている。(満足度指標)	保護者	70	38	40			
II 豊かな心	道徳教育を要として、道徳実践力を養成する。	児童の人権や生命を大切にしようとする意識が高まるように道徳等で指導を行う。(取組指標)	教員	90	95	100	道徳の学習に意欲的に取り組んでいる児童の数が、昨年度同様であり、児童の意識は高いまま維持されている。授業では、道徳の価値について自分自身で考えたり、友達との考えを聞き取りながら、道徳の考えが書かれたボードやワークシートを家庭に持ち帰り、見てもうような工夫が必要である。今年度は実施できなかった活動があり、児童は考えを深めることができた。	保護者が我が子の心の成長に期待しているように、授業での考えが書かれたボードやワークシートを家庭に持ち帰り、見てもうような工夫が必要である。今年度は実施できなかった活動があり、児童は考えを深めることができた。	
		道徳等の指導を通して、児童の人権や生命を大切にしようとする意識が高まっていると思う。(成果指標)	教員	90	100	95			
		児童は、道徳の学習に意欲的に取り組んでいる。(成果指標)	児童	90	98	98			
		子どもは人権や生命に関する言動が、以前より成長したと感じている。(満足度指標)	保護者	80	78	76			
		ボランティア活動を取り入れ、思いやりの心を育てる。	ボランティア活動を取り入れ、思いやりの心を育てる授業を展開する。(取組指標)	教員	90	28	47	昨年度同様、ボランティア活動の実践ができていない。今年度は活動に制限があり、取り入れられなかったこともある。思いやりの心は学校生活全体を通して、指導していく必要がある。	本年度は、ボランティア活動を計画的に取り入れていく必要がある。学校全体で取り組めるように役割活動等を活用できるようにしていく。思いやりの心を育てる取り組みは、今後も継続して行い、さらに意識を高めていく。
			ボランティア活動を取り入れたことで、児童に思いやりの心が育っていると感じている。(成果指標)	教員	90	39	79		
			児童は思いやりの心をもち、みんなに対して優しく接することができたと感じている。(成果指標)	児童	90	88	88		
			子どもに思いやりの心が育っていると感じている。(満足度指標)	保護者	90	88	86		
		「いじめ防止基本方針」を元に、教育相談活動を重視して、いじめの防止、早期発見、早期対応に努める。	日常の対話により児童生徒の実態を把握するよう努め、きめ細かな対応を行っている。(取組指標)	教員	80	100	100	1月1日のアンケートや日常の行動観察を通して、子どもの実態を把握し、いじめの早期発見、対応をすることができた。教員は、いじめの早期発見や対応ができたと感じているが、児童の中には、教員と話をしたいと感じている場合がある。多忙の中で児童と話す時間をとることは難しいと感じている。	毎日多忙な中で、児童と向き合う時間を持つのは難しいが、なかなか一人一人の児童に十分対応することは難しいが、「いつも味方だよ。」といったサインを送ったり、声掛けをすることが大事であると考えている。学校に通うのが楽しくない理由を把握し、対応していく。
			教育相談活動を通して、いじめの防止、早期発見、早期対応を行うことができた。(成果指標)	教員	90	100	100		
			児童は、先生と、学習や生活について話をする機会が増えたと感じている。(成果指標)	児童	80	74	73		
			児童は、友だちもいて学校に通うのが楽しいと感じている。(成果指標)	児童	95	95	91		
	業間運動でマラソンなどを行い、体力の向上を図る。	チャレンジマラソンやなわとび等で、児童の体力が増進するよう取組を行っている。(取組指標)	教員	90	100	100	例年と比べると運動時間は確実に減ったが、業間運動を後期から開始し、コロナ対策をしつつ、できる活動を行うことができた。体育の授業でのマラソンタイムの測定や、なわとびカードを使った目標設定を行い、意欲を高めることができた。	マラソンのタイムや、なわとびカードの達成具合を視覚化し、児童が自分自身で確認したり、児童同士で競い合ったりできるような手応えを工夫する。掲示物やおたよりなどで、保護者にも情報を発信していく。	
		児童は、チャレンジマラソンやなわとび等で体力が増進されている。(成果指標)	教員	90	95	100			
		児童は、チャレンジマラソンやなわとび等で、体力がついてきた。(成果指標)	児童	90	95	97			
		子どもは、チャレンジマラソンやなわとびを通して体力が向上している。(満足度指標)	保護者	80	88	91			
	「1・8・1生活チェック」やノーテレブタイム、ノーゲームデー等を家庭と協力して実施し、規則正しい生活習慣の実現を目指す。	「1・8・1生活チェック」等で、基本的な生活習慣を身につけさせる取組を行っている。(取組指標)	教員	90	100	89	1・8・1生活チェックは自分の生活を振り返る機会にするものであり、特に睡眠時間について課題が見つかった。チェックして終わりにせず、学級指導等に活用するなど、データを有効に使う必要がある。	チェックした内容を集計し、課題となる項目を重点的に特別活動などの授業の中で指導していく。学年によりは保護者への情報発信と、協力の依頼とともに、年間3回から月に1回にチェック回数を増やすなど、習慣化していく。	
		「1・8・1生活チェック」等で、児童は、基本的な生活習慣が身についている。(成果指標)	教員	90	100	79			
		児童は、「1・8・1生活チェック」等で、基本的な生活習慣が身についている。(成果指標)	児童	90	89	90			
		子どもは、「1・8・1生活チェック」等で、基本的な生活習慣が身についている。(満足度指標)	保護者	90	70	64			
	交通安全指導や防災・防犯・引き渡し訓練を通して、安全に対する指導を十分行っている。	交通安全指導や防災・防犯・引き渡し訓練を通して、安全に対する指導を十分行っている。(取組指標)	教員	90	100	100	定期的な地区子ども会を開催し、安全な登下校について指導している。本年度は交通安全教室を開催することはできなかったが、登下校の様子で地域からご意見を頂いたことで、各学級で指導することができた。	教員による月初めの登校指導に加え、学年の状況に応じて下校指導を行う。特に交通安全については学年の発達段階に応じた交通安全指導教室の内容を精選し、効果的な指導をしていく。	
		児童は、交通安全指導や防災・防犯・引き渡し訓練を通して、児童は自分の身を守る意識が高まっている。(成果指標)	教員	90	95	95			
		児童は、交通安全指導や防災・防犯・引き渡し訓練で学んだことから、自分で安全に気をつけている。(成果指標)	児童	90	97	97			
		学校では、子どもの安全に対して十分な取り組みを行っている。(満足度指標)	保護者	80	92	94			

IV 信頼される学校	ホームページを定期的に更新するとともに、「学年だより」などを発行して学校の情報を発信する。	ホームページを定期的に更新したり、いろいろな「たより」を定期的に発行したりして、学校の情報を発信する。(取組指標)	教員	90	84	95	コロナ禍に伴い、様々なおたよりや連絡を随時細かく発信することができていた。	定期的に更新し、見やすいものを作っていく。
	学校公開日を年数回実施し、保護者や家族の方々に児童の活動の様子を積極的に公開する。	ホームページの更新やいろいろな「たより」の発行等で、学校の教育内容を発信している。(満足度指標)	保護者	90	88	88	行事予定やおたよりの更新は定期的に行っていたものの、行事の写真等更新する機会が少なかった。	
	ネット利用や情報モラルについて情報を発信する	学校公開や学校行事を通して、積極的に児童の活動を公開する。(取組指標)	教員	90	80	95	12月に分散方式で学校公開が行えたのは良かったが、マラソン大会や運動会などの大きな行事が例年通り実施できなかったことが、ポイント減の要因である。行事の実施方法や公開方法を工夫する必要がある。	今後も保護者が参加しやすいように、児童の活動の様子がよりわかるように計画的に公開していく。また、HP上での動画配信など、公開方法についても改善を模索する必要がある。
	家庭や地域の方々と連携して、自らあいさつのできる子を育てる。	ネットの利用や情報モラルについて、必要な情報を発信する。(取組指標)	教員	90	40	60	ネット利用(スマホ、タブレット等)の利便性と危険性について、児童や保護者に伝えていく機会を積極的に設けていく必要がある。	本校が現在抱えているネット利用に関する問題点を学校全体で共有していくことにより、高学年だけではなく、中学年以下の児童のネットリテラシーを向上させていく。
	保護者や地域住民と積極的に関わって行事を行う。	ネットの利用や情報モラルについて、親子で話し合いの機会をもつ。(満足度指標)	保護者	90	74	75	校長先生を先頭に毎朝登校指導に立って下さる先生や、月に一度の登校指導、毎朝の生活安全委員によるあいさつ運動の結果、全体的に挨拶に対する児童の意識は向上している。ただし、声の大きさや積極性には課題がある。	本校が現在抱えているネット利用に関する問題点を学校全体で共有していくことにより、高学年だけではなく、中学年以下の児童のネットリテラシーを向上させていく。
	事前指導を丁寧に行い、長期休業を学校の途中として取り組むための効果的な手段を講じる。	家庭や地域の方々と連携して、あいさつの指導にしっかり取り組んでいる。(取組指標)	教員	90	100	90	校長先生を先頭に毎朝登校指導に立って下さる先生や、月に一度の登校指導、毎朝の生活安全委員によるあいさつ運動の結果、全体的に挨拶に対する児童の意識は向上している。ただし、声の大きさや積極性には課題がある。	自発的に挨拶をしていこうとする校風を作るために、学年ごとにアンケートを行って現状をデータで「見える化」し、特別活動の一環として、授業に指導を位置づける。
	学習や生活の様子を伝えるための資料を工夫し、児童や保護者に対して丁寧な説明を行う。	児童は自分から元気にあいさつをしている。(成果指標)	教員	90	77	67	今年度は、コロナ禍により例年のような民生委員児童委員の方やボランティアの方々との協力ができなかった。今後は、工夫しながらできることを増やしていく必要がある。	今年度もPTA各委員会の方々と共に十分に計画を練り、有意義な活動を実施していく。また、新たな地域の教育資源を発掘し、「人・もの・こと」の有効活用をさらに進める。
	学習や生活の様子を伝えるための資料を工夫し、児童や保護者に対して丁寧な説明を行う。	児童は、友達や先生、地域の人に自分から元気にあいさつをしている。(成果指標)	児童	90	92	88	今年度は、コロナ禍により例年のような民生委員児童委員の方やボランティアの方々との協力ができなかった。今後は、工夫しながらできることを増やしていく必要がある。	今年度もPTA各委員会の方々と共に十分に計画を練り、有意義な活動を実施していく。また、新たな地域の教育資源を発掘し、「人・もの・こと」の有効活用をさらに進める。
	学習や生活の様子を伝えるための資料を工夫し、児童や保護者に対して丁寧な説明を行う。	子どもは、地域や家庭などで自分からあいさつをしている。(満足度指標)	保護者	80	76	74	今年度は、コロナ禍により例年のような民生委員児童委員の方やボランティアの方々との協力ができなかった。今後は、工夫しながらできることを増やしていく必要がある。	今年度もPTA各委員会の方々と共に十分に計画を練り、有意義な活動を実施していく。また、新たな地域の教育資源を発掘し、「人・もの・こと」の有効活用をさらに進める。
	V 2学期制	事前指導を丁寧に行い、長期休業を学校の途中として取り組むための効果的な手段を講じる。	保護者や地域住民と積極的に関わって行事を行う。(取組指標)	教員	90	95	95	今年度は、コロナ禍により例年のような民生委員児童委員の方やボランティアの方々との協力ができなかった。今後は、工夫しながらできることを増やしていく必要がある。
学習や生活の様子を伝えるための資料を工夫し、児童や保護者に対して丁寧な説明を行う。		保護者や地域住民と積極的に関わることができる。(成果指標)	教員	90	75	100	今年度は、コロナ禍により例年のような民生委員児童委員の方やボランティアの方々との協力ができなかった。今後は、工夫しながらできることを増やしていく必要がある。	今年度もPTA各委員会の方々と共に十分に計画を練り、有意義な活動を実施していく。また、新たな地域の教育資源を発掘し、「人・もの・こと」の有効活用をさらに進める。
事前指導を丁寧に行い、長期休業を学校の途中として取り組むための効果的な手段を講じる。		長期休業を「学期の途中のもの」とし、休業中の支援を意図的・計画的に行っている。(取組指標)	教員	80	95	95	夏季・冬季休業の短縮があったものの、長期休業を計画的に過ごすことができたと感じている児童が多い。教師も学期の途中として計画的に取り組むことができていた。	今後も保護者と連携して、長期休業の指導をしっかり行う。また、休業中に実施している個別学習を継続し、基礎学力の定着を図っていく。
学習や生活の様子を伝えるための資料を工夫し、児童や保護者に対して丁寧な説明を行う。		夏休みや冬休みは、計画的に課題に取り組むことができた。(成果指標)	児童	80	90	89	夏季・冬季休業の短縮があったものの、長期休業を計画的に過ごすことができたと感じている児童が多い。教師も学期の途中として計画的に取り組むことができていた。	今後も保護者と連携して、長期休業の指導をしっかり行う。また、休業中に実施している個別学習を継続し、基礎学力の定着を図っていく。
学習や生活の様子を伝えるための資料を工夫し、児童や保護者に対して丁寧な説明を行う。		子どもは、夏休みや冬休みの期間は計画的に課題に取り組んでいる。(満足度指標)	保護者	80	84	81	夏季・冬季休業の短縮があったものの、長期休業を計画的に過ごすことができたと感じている児童が多い。教師も学期の途中として計画的に取り組むことができていた。	今後も保護者と連携して、長期休業の指導をしっかり行う。また、休業中に実施している個別学習を継続し、基礎学力の定着を図っていく。
学習や生活の様子を伝えるための資料を工夫し、児童や保護者に対して丁寧な説明を行う。	児童や保護者に対して、学習や学校生活の様子を丁寧に伝え、共通理解を図っている。(取組指標)	教員	80	100	100	児童・保護者とも昨年度とほぼ同じポイントとなっている。個人面談等により、保護者に児童の様子を丁寧に説明することができていた。	保護者会で配布している補助資料や、同時に配布している他の資料が十分か今後も検討し改善していく。	
学習や生活の様子を伝えるための資料を工夫し、児童や保護者に対して丁寧な説明を行う。	児童は、先生との面談や振り返りにより、学習や生活の様子について考えることができた。(成果指標)	児童	80	92	93	児童・保護者とも昨年度とほぼ同じポイントとなっている。個人面談等により、保護者に児童の様子を丁寧に説明することができていた。	保護者会で配布している補助資料や、同時に配布している他の資料が十分か今後も検討し改善していく。	
学習や生活の様子を伝えるための資料を工夫し、児童や保護者に対して丁寧な説明を行う。	個人懇談や通知表により、子どもの学習や生活の様子について詳しく知ることができた。(満足度指標)	保護者	80	97	96	児童・保護者とも昨年度とほぼ同じポイントとなっている。個人面談等により、保護者に児童の様子を丁寧に説明することができていた。	保護者会で配布している補助資料や、同時に配布している他の資料が十分か今後も検討し改善していく。	